

公 民 [倫 理] (100 点 50 分)

2007年6月6日(水)2限実施

千葉県立千葉東高等学校 第3学年 1,2,3,4組

Edited by K.Kataoka ©

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 3 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。
 - 学年、組、名前を記入する。
 - 学年、組の該当個所をマークする。
 - 出席番号をマークする。(10番以上は10の位と1の位の2カ所)
 - 男女の欄をマークする
 - 1.2.3枚目のところはマークしない。
 - 停・欠・遅・早のところはマークしない。
 - 機械の読みとりミス確認のため、解答欄はマークの左側に番号を記入しておく。以上が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
- 4 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

倫 理

(解答番号 [1] ~ [50])

第 1 問 次の A B の文章を読み下の問い (問 1 ~ 問 8) に答えよ。(配点 20)

A 人類は昔から「人間とは何か」を問い、その本質をさがしてきた。古代ギリシアの [1] のアポロ神殿には、「汝自身を知れ」という格言がかかげてあったという。「人間とは何か」という問いに対して、古来さまざまな思索がなされ、人間の本質についていろいろな定義が生まれてきた。

ソクラテスは人間の特質は「理性」をもつところにあるといい、(a)アリストテレスは「人間は社会的（政治的）動物である」という。前者は、人間を、世界の秩序を合理的に認識できる能力（理性）をもった存在として規定しようとした定義であり、後者は、人間は自覚的に社会を形成し、その中で生きる存在であるとしたのである。近代になって、フランスの (b)パスカルは人間を「考える葦」とよんだ。人間は自然の中でもっとも弱い存在であるが、「考える」ことのできる存在であり、そこに人間の偉大さがあるというのである。現代ドイツの思想家 [2] は、人間を、ことばによって人間的な意味の世界をつくりあげている、「象徴（言語）を操る動物」であるという。さらに、(c)オランダの歴史家ホイジンガは、人間を「遊ぶ人（ホモ・ルーデンス）」と定義した。

これらの人間についての諸定義は、どれもが人間についての真実をいいあてているが、ある側面を取りだして規定したものである。それほど人間は、複雑で不可解な存在であるといえよう。

問 1 文章中の空欄 [1]・[2] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの ~ のうちから一つずつ選べ。

- | | | | |
|-------|---|--------|---------|
| [1] | [| デルフォイ | ミレトス |
| | | オリンピア | アテネ |
| [2] | [| カッシーラ | ベルクソン |
| | | ブルクハルト | シュプランガー |

問 2 文中の下線部 (a) の言葉の書かれた著作とおなじものに書かれているアリストテレスの言葉として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。 [3]

中庸というのは二つの悪徳の、すなわち過多と不足との中間にあるのである。

悲劇とはある行為を模倣し、恐怖と憐憫を巻き起こしながら感情の浄化をなすとげる。

驚異することによって人間は、知恵を愛求し始めたのである。

支配者たち自らの私利私欲を追求する国制はすべて誤った国制である。

問3 文中の下線部(b)に関連して、パスカルの残した言葉として**適当でないもの**を、次の～の中から一つ選べ。[4]

慰戯(気晴らし)は人間の持つみじめさのうち最も大きいものである。

クレオパトラの鼻。それがもっと短かったなら 大地の全表面は変わっていただろう。

同じ種の仲間で殺し合いをするのは人間だけである。

たとえ宇宙が彼を押しつぶしても、人間は彼を殺すものよりも高貴であろう。

問4 文中の下線部(c)に関連して、遊びの形式のなかで発生した文化は、その発展の中で「遊び」の要素を失っていく。ホイジンガはこれをスポーツを例にとりて説明している。スポーツの歴史を見てくると、純粋な「遊び」の要素がスポーツから失われてきたというのである。このような状態をもたらした原因として**適当でないもの**を、次の～のうちから一つ選べ。[5](1997年センター本試験より)

スポーツがナショナリズムや商業主義と結びついたため。

スポーツ選手に要求される技術の専門化・高度化が進んだため。

スポーツに参加する競技人口やファンの数が増加したため。

スポーツ競技において特に勝敗が意識されるようになったため。

B 倫理は、人間としての生き方に深く関わっており、(d)人間の心を科学的に扱う心理学と無縁ではない。古くからころは哲学的な考察の対象とされていたが、実証に基づく科学としての心理学は、19世紀に登場した。当時の心理学者たちは、ころを内観することによって意識を捉えようとした。意識をめぐって科学としての心理学が確立したのである。

これに対して(e)フロイトは、本人の意識していない欲求・葛藤・願望が、人の心や行動に影響を与えていると考え、心理学に(f)無意識の概念を導入した。その考え方は、ユングらの様々な理論に影響を与えた。

しかし、すべてを無意識のせいにするのは科学的ではないとして、観察可能な行動のみを取り扱おうとする行動主義の動きが起こった。

こうした流れをふまえて、現在の心理学では、行動を記録するなど方法論上の細かい工夫を通して、意識を捉え直すことが活発に行われている。悩みの解決を援助するカウンセリングは、様々な心理学の応用の一例であり、倫理に求められている課題を具体的に実践しているものといえる。

問5 文中の下線部(d)に関連して、心理学者・精神医学者とその研究のキーワードの組み合わせとして**適当でないもの**を、次の～のうちから一つ選べ。[6]

レヴィン - 「欲求階層説」

神谷美恵子 - 「生きがい」

エリクソン - 「ライフサイクル」

オルポート - 「成熟したパーソナリティ」

問6 文中の下線部(e)に関連して、フロイトの学説に関する記述として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[7](2004年センター本試験より)

欲求不満から生じる不安や緊張から自我を守ろうとする防衛機制は、欲求不満の原因となった当の問題を取り除く。

自我は快感を求めるエス(イド)の要求を現実に適応させ、同時に良心としての超自我の命令にも応じようとする。

ノイローゼ(神経症)の原因となるものは、心の深層としての無意識の中に昇華された性的欲求などの衝動である。

両親の愛情を独り占めにしようとして、弟妹を邪魔者と感じる兄弟の心理を、エディプス・コンプレックスと呼ぶ。

問7 文中の下線部(f)に関して、フロイトが考えた無意識があらわれる例として**適当でないもの**を、次の ~ のうちから一つ選べ。[8](2007年センター本試験より)

気掛かりなことがあると、何かに追いかけられる夢を見てしまう。

複雑な感情を抱いている相手の名前を、言い間違えてしまう。

朝日が昇のを見ると、誰もが荘厳な感じを抱いてしまう。

もう一度行きたいと思っている場所に、忘れ物をしてしまう。

問8 防衛機制のうち、抑圧と投射の例として最も適当なものを、次の ~ のうちからそれぞれ一つずつ選べ。抑圧については[9]に、投射については[10]に答えよ。

韓国ドラマの影響を受けた彼は、銀縁めがねにマフラーを巻いて鏡の前で薄笑いを浮かべてみては喜んでいる。

本当は自分が彼のことを憎んでいるにもかかわらず、それに気付かず彼が自分のことを憎んでいるのだと思い込んでしまう。

今すぐ恋人が欲しいという熱い気持ちを受験勉強に振り替えて、大学入学後の幸せな生活を目指して努力を重ねた末、みごと合格を勝ち取った。

本当はなりたかった画家になる夢をあきらめた彼女は、売れない画家としての貧乏生活をしなくてよかったと思っている。

子どもの頃自宅が火事になったというものすごい恐怖の経験があるが、その時の記憶だけがほとんどない。

弱虫でいつも友達にいじめられていた彼が、急に服装や髪型をヤンキースタイルに変えて暴力的になってしまった。

第2問 次の文章A Bを読み下の問い(問1～問10)に答えよ。(配点 20)

A 真理への意志は、これまで哲学において、真理を欲望から解放するものと思われてきた。しかし、真理への意志は、それ自体が一種の欲望ではないだろうか。そのように問い掛けて、フーコーは『言語表現の秩序』の中で言う。プラトン以来、西洋の哲学的な知は、真理への意志によって言説(言語表現)を真実と虚偽とに分割し、真なる言説を普遍的なものとして打ち立てた。(a)ヘシオドスや(b)ソフィストにおいては、正しい言説というのは、人々を動かしたり感動させる力を持ったものであった。ところがプラトン以来、それが、もっぱら正しい概念をあらわす言説、形式的に首尾一貫した言説、確実な指示対象をもった言説へと変化してきた。その結果、言説はその独自性や固有の次元においてではなく、思想内容の単なる表現として捉えられるようになった。しかし、言説そのものの次元には、もっと戯れに満ちた働きがあるのではなからうか、と。

この真理への意志に対する批判がいつそう推し進められるとき、それは、『根源の彼方へ』においてデリダが行ったような、[11] 中心主義への批判となる。[11] 中心主義とは、あらゆる意味での[11]、つまり、話されることば、神知、至高の理性、論理、合理性、そして人間理性の一形態である意識が、常に真理の最終根拠として持ち出されるやり方である。「中村雄二郎『問題群 哲学の贈りもの』(岩波新書、1988)より」

問1 文章中の空欄[11]に入れるのに最も適当なものを、次の～のうちから一つ選べ。

パトス レトリック エピステーメー ロゴス

問2 下線部(a)に関して、ヘシオドスの作品の一部として最も適当なものを、次の～のうちから一つ選べ。[12]

オデュッセウスはまだ敵の何ものかが生き残り、黒き死を逃れて潜んではおらぬかと、屋敷のうちを見回したが、求婚者たちが全員血と塵にまみれて倒れているのを見た。

人間は労働によって家畜もふえ、裕福にもなる、また働くことでいっそう神々に愛されもする。労働は決して恥ではない、働かぬことこそ恥なのだ。

暗い夜に群星の間を進むひとときわ明るい星、天空に輝く星の中でも殊に美しい夕星のごとく、勇将ヘクトルに禍難を加えんものと、アキレウスの右手の槍の穂先が光る。

おお、祖国テバイに住む人々よ、心してみよ、これぞオイディプス、かつては名高き謎の解き手、権勢ならぶものもなく。

問3 下線部(b)に関して、ソフィストの活動の特徴として**適当でないもの**を、次の～

のうちから一つ選べ。[13]

絶対的な真理を探究する

徳の教育を標榜する

金銭を取って教育を授ける

言論の力による説得を目指す

問 4 ソフィストの名前として最も適当なものを，次の ~ のうちから一つ選べ [14]

ソロン

アナクシメネス

アナクサゴラス

プロタゴラス

問 5 前ページの文の趣旨に合致する記述として最も適当なものを，次の ~ のうちから一つ選べ。[15]

そもそも正しい言説には人々を動かしたり感動させる力があり，フーコーやデリダはそのような言説こそ真理であると主張する。

真理とは首尾一貫性を持つものではなく，フーコーやデリダは真理とは人間によって異なる相対的なものであると批判を加える。

伝統的な哲学の知においては真理に対して絶対的な信頼が置かれていたが，フーコーやデリダはそのような知の在り方に根源的な批判を加える。

真理と虚偽は単純に分割できるようなものではなく，フーコーやデリダは真理への意志という強い欲望をもって求めなければ真理に到達できないと主張する。

B ギリシャ哲学は，紀元前 6 世紀ごろ小アジア南西部海岸ぞいの [16] 地方に住んでいた自然哲学者とよばれる人々から始まる。彼らは，この世界を神話的に説明するという従来の方法を排し，合理的思考によってとらえようとした。

その口火をきったのがタレスである。彼は天文学や幾何学の確立に大きな功績を残したすぐれた自然研究者であったが，彼はそれだけにとどまらず，この自然全体の根本原理となるもの，つまり(a)万物の根源を問題にした。タレスはそれを「水」としたが，これを受けてその後，万物の根源を問う思想家がつぎつぎとあらわれ，(b)さまざまな理論を展開した。

問 6 文中の空欄 [16] に入るものとして，最も適当なものを，次の ~ のうちから一つ選べ。

イオニア

アッティカ

ドーリア

アイオリス

問 7 下線部(a)に関して，万物の根源を表すことばとして，最も適当なものを，次の ~ のうちから一つ選べ。[17]

アレテー

ト・アペイロン

アルケー

アウタルケイア

問 8 文中の下線部(b)に関連して，17 世紀に惑星の運動法則が発見されるきっかけの一

つとして、神が創造した宇宙では天体が妙なる音楽を奏でているはずだという考え方があった。その考え方の由来となったピタゴラス派の思想を説明した記述として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[18](1999 年センター追試より)

ピタゴラスが考えたように、惑星の位置や運行は楽曲のメロディーと同じく偶然決まったに過ぎないが、一度決まると同じ形で反復される。

ピタゴラスが考えたように、惑星は神によって動かされており、その運行の美はカタルシスをもたらす点で楽曲と同じ作用を持っている。

ピタゴラスが考えたように、惑星は神によって動かされており、その原動力はエロースである点で楽曲の創作と同じである。

ピタゴラスが考えたように、惑星の位置や運行は整然とした数的秩序に従っており、楽曲のハーモニーと同じ原理に基づいている。

問 9 デモクリトスの原子論を説明した文として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[19](1998 年センター本試より)

木火土金水の五種のアトムが、空間としてのケノンの中で万物を構成する。

全体としてのアトムが、空間としてのケノンの中で分離し万物を構成する。

陰気と陽気であるアトムが、空間としてのケノンにおいて運動する。

分割できないアトムが、空間としてのケノンにおいて運動し集合離散する。

問 10 自然哲学の中にみられる二つの立場を、生成消滅変化運動する自然が万物の実相であるという「生成」と見る立場と、自然の背後にある不消不滅不変不動の存在が万物の実相であるという「存在」と見る立場に分けた場合、自然哲学者の分類として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[20]

「生成」 - パルメニデス, 「存在」 - ヘラクレイトス

「生成」 - タレス, 「存在」 - エンペドクレス

「生成」 - エンペドクレス, 「存在」 - タレス

「生成」 - ヘラクレイトス, 「存在」 - パルメニデス

第3問 次の文章を読み下の問い(問1～問6)に答えよ。(配点 16)

ソクラテスは、自分自身の[21]をたいせつにすることの必要を説き、自分自身にとってもっともたいせつなものは何かを問うて、毎日、町の人々と哲学的対話を交わすことを仕事とした。そして、おそらくはこの仕事のために嫉まれて告発され、裁判され、死刑の宣告を受け、毒杯を仰いで死んだ。

ソクラテスは書物を書かなかった。その周囲にあった何人かの人が彼について書き、われわれはこれによって彼を知るが、そのうちのだれを、また、どこまで信ずべきかという点に問題があり、これを哲学史上「ソクラテス問題」という。通常は、[22]の伝えるソクラテス像を骨子とし、これに他のものを補うことが多い。

若いころのことについて、確かなことは知られない。われわれに親しいのは、年配のソクラテスがアテネの街角や体操場で美しい青少年を相手に、また町の有力な人々を相手に、人を幸福にするものは何か、善いものは何か、勇気とは何かと問いただしている姿である。これをソクラテスの(a)問答法=ディアレクティケーという。これらの問答の主題は、多くこのように実践に関するものであった。そして、この問答はいつも「まだそれはわからない」という無知の告白を問答者が相互に認め合うことで終わった。この際、相手は、(b)ソクラテスがそういいながらも実は自分では知っているという印象をもつことが多く、そこで自己の無知を露呈された人々は、ある場合、ソクラテスのやり口の陰険さに怒った。

しかし、ソクラテスの真意は、各人が自己の存在がそれによって意味づけられている究極の根拠についての無知を悟り、これを尋ねることをなによりもたいせつなことと知るように促すことにある。もとより、ソクラテスがこの根拠を知るというのではない。(c)むしろ、究極の根拠についての無知を悟り、それへの問いかけを通じてこのアポリアのうちにとどまるところにソクラテスの[23]がある。それは根源から問いかけられるものとしての場に、己を置くことであり、このような方法で己が全体として根源から照らされることである。

問1 文章中の空欄[21]・[22]・[23]に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの～のうちから一つずつ選べ。

- | | | | |
|--------|---|---------|----------|
| [21] | [| ノモス | ドクサ |
| | | ピュシス | プシュケー |
| [22] | [| アリストテレス | アリストファネス |
| | | プラトン | ディオゲネス |
| [23] | [| ソフィズム | ミュトス |
| | | ヒュプリス | フィロソフィア |

問2 下線部(a)に関して、ソクラテスは自分の問答を産婆術(助産術)と呼んだ。それを説明する記述として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[24](2005年センター本試より)

産婆は妊婦の出産までを熟知しており、妊婦に適切な出産法を教えることができる。対話相手は無知であるが、問答によってソクラテスから真理を教授されることにより、真偽を判断することができる。

産婆は高齢のため身ごもることはできず、出産を助けることだけができる。ソクラテスは無知であるが、問答によって対話相手の考えを引き出す手助けを学ぶことを通じて、無知から解放されるようになる。

産婆の助けがないと妊婦の出産は困難であり、出産は両者の協同により成功する。ソクラテスも対話相手も無知であるが、問答によってお互いの不足を補いながら探究することにより、真理に到達できる。

産婆は高齢のため出産はできないが、妊婦の状況を見極めて、その赤子を取り上げることができる。ソクラテスは無知であるが、問答によって真偽を吟味しながら、対話相手自らの考えを引き出すことができる。

問3 下線部(b)に関して、このような「空とぼけ」をあらわすギリシア語として最も適当なものを、次の ~ の中から一つ選べ。[25]

ドグマ フモール ドクサ アイロネイア

問4 下線部(c)を参考にして、「アポリア」という術語を適切に使用している記述を、次の ~ の中から一つ選べ。[26]

サルトルは、主体が他者と出会う場面を、見ることによって相手を石にするか、見られることによって自分が石にされるかという、いわばメドゥサ同士の対決の場面のような、主体と他者の際限ない闘争というアポリアとして描いている。

ニーチェは、キリスト教の道徳は彼岸に宗教的な世界を構想し、そこへと弱者が救われると信じることによって、この世を支配する強者に対するアポリアをあらわした奴隷の道徳であると考えた。

カントは、理性を論理の上で経験に先立ち、経験を可能にするアポリアな能力であり、主観は感覚に与えられる混沌とした素材を秩序づけるアポリアな形式を備えていると考えた。

ガリレイは、アポリアを立ててそれを観察と実験によって検証し、自然現象を数学的に定式化することによって近代科学の方法論を基礎づけた。

問5 ソクラテスの問答法によって「無知の自覚」を表明したのものとして最も適当なものを，次の ~ の中から一つ選べ。[27](2003 年センター追試験より)

ソクラテスという人は，いつもこうなのだ。ほとんどとるに足らないような事柄を問い返しては，相手を反駁しようとする。もし誰かが何事につけてもこの人のいうことに同意してやったなら，この人ときたら，まるで若者のように大喜びするにちがいない。

対話問答を通して議論を進めていくソクラテスの熱意は，称賛に値する。私は悪い人間ではないし，また私ほど嫉妬心から縁遠い人間はいないので，ソクラテスが知恵にかけて有数の人物の一人になったとしても，決して驚かないだろう。

ソクラテスは自ら困難に行き詰まっては，他人も行き詰まらせてしまう。これまで大勢の人々に向かって徳について私が語ってきた話は，自分では立派な内容だと思っていた。ところが，今では徳とは何かということさえ語るができなくなった。

ソクラテスは相手に質問するばかりで，自分の方からは何一つ答えようとしなない。答えるよりも問うことの方が簡単だということをよく知っているものだから，誰かに質問されると空とぼけて，あれこれ言いつくろっては答えるのを避けるのだ。

問6 ソクラテスの父親の職業として最も適当なものを，次の ~ の中から一つ選べ。

[28]

石 工 助産士 大 工 看護士

第4問 次の文章を読み下の問い(問1～問7)に答えよ。(配点 16)

ソクラテスの言行の指し示していた意味の究明、とくに問答を通じて倫理的徳目(勇気、節制、美など)を明確に定義しようとした努力の継承・発展が、プラトン哲学の基本的動因となっている。ソクラテスの問い、例えば「美とは何か」を満たすべき「まさに美であるもの」が、プラトンによってイデアとして措定される。(a)イデア論は、倫理や価値の領域をこえて、広く自然・世界解釈全般に適用され、存在と生成の問題すべてにわたる統一的な説明原理となってゆく。これと並行して、ソクラテスの主張は「イデアを認識するために魂・精神をできるだけ身体・感覚の影響から純化せよ」という要請として継承され、魂・精神は永遠不滅のイデアと類縁関係にあつて、本来[29]であるという確信となる。イデア界とその認識努力の究極には、「学ぶべき最大のもの」として、[30]がある。仮説・前提を廃棄しつつ上方の原理へとさかのぼり、[30]の直知にまで到達することを目指す、純粹思惟によるイデア界の探究が「ディアレクティケー」と呼ばれ、哲学的営為の最上位におかれる。彼の哲学は、ソクラテスの言行に示唆されていた可能性の究明から出発して、価値と認識と存在とを統一的に把握する一つの形而上学を旨としたものといえるが、その発展はつねに理想的な国家社会の実現への努力と一体をなしている。理想国家を大胆に描いた(b)『国家』や、よりリアルな国制改革を論じた『法律』の二大著作は、政治の書としても、後世に大きな影響を与えている

問1 文章中の空欄[29]・[30]に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの～のうちから一つずつ選べ。

- | | | | |
|--------|---|---------|---------|
| [29] | [| 不死なるもの | 可視なるもの |
| | | 不可視なるもの | 死すべきもの |
| [30] | [| 美のイデア | カロカガティア |
| | | 善のイデア | エウダイモニア |

問2 下線部(a)に関して、イデアを説明した記述として**適当でないもの**を、次の～のうちから一つ選べ。[31]

- | | |
|-----------|------------|
| 個物に内在する本質 | 人間の真の知の対象 |
| 感覚を超えた真実在 | 恒常不変の完全な存在 |

問3 下線部(a)に関して、『国家』篇に描かれているプラトンの洞窟の比喩を説明するものとして最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[32]

洞窟の闇に映る影絵のように、物質的現象には実体がなく、実体がないから物質的現象であることをたとえた比喩。

洞窟の中において自然の光が遮られているように、個人的な性格や環境に由来する偏見をたとえた比喩。

洞窟の中では外界から遮断されているように、原因と結果の間には必然的な因果関係は実在しないことをたとえた比喩。

洞窟の壁に映った影だけを知覚している囚人のように、人間は現象を真の実在と思い込んでいるということをたとえた比喩。

問4 プラトンの魂の三部分と国家を説明する記述として**適当でないもの**を、次の ~ のうちから一つ選べ。[33]

理性が御者になり、気概の白い馬を励まし、欲望の黒い馬を叱って馬車を操ることによって魂の秩序がもたらされる。

統治者階級が知恵を、防衛者階級が勇気を、生産者階級が節制の徳を發揮して三者が調和することによって国家に正義がもたらされる。

哲学者が統治者階級となり、軍人や庶民と協力しながら民主的な国家を実現することが政治の理想の姿である。

真実に哲学をするものが政治上の元首となるか、国々の権力者が真実に哲学するようになるか、どちらかが実現されない限り人類が禍いからまぬがれることはできない。

問5 エロースについて論じられたプラトンの対話篇として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[34]

『クリトン』 『饗宴』 『ティマイオス』 『国家』

問6 プラトンの思想に影響を与えた自然哲学者として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[35]

アナクシマンドロス タレス ヘラクレイトス ピュタゴラス

問7 アイデアという言葉の語源となったイデイン(idein)の意味として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[36]

見る 聞く 話す 読む

第5問 次の文章を読み下の問い(問1～問10)に答えよ。(配点 22)

A 学問的な認識は、事物のもつ必然的な関連をその原因によって認識することにある。アリストテレスはその手続を[37]の形式として確立し、その諸形式を枚挙して、後の形式論理学の基礎を築いた。様相論理の開拓にも力を注いだが、この方面でのアリストテレス論理学の意義が注目され始めたのは最近のことである。

問1 上のAの文章中の空欄[37]に入れるのに最も適当なものを、次の～のうちから一つ選べ。

三段論法 帰納法 自然法 演繹法

B アリストテレスによると、櫨の木は、櫨の実の中にもともとひそんでいた櫨の木という【あ】が、【い】を通じてしだいにその姿を現してきたものである。同じ事が【う】の大理石の中から【え】としての像が引き出されて大理石の像が完成する場合にもあてはまると考えた。

問2 上のBの文章中の空欄【あ】【い】【う】【え】に入れるのに最も適当な組合せを、次の～のうちから一つ選べ。[38]

【あ】エイドス【い】ヒュレー【う】ヒュレー【え】エイドス
【あ】エイドス【い】ヒュレー【う】エイドス【え】ヒュレー
【あ】ヒュレー【い】エイドス【う】エイドス【え】ヒュレー
【あ】ヒュレー【い】エイドス【う】ヒュレー【え】エイドス

問3 『ニコマコス倫理学』において人間固有な働きの中でも最高の働きと評価される「テオリア」についての説明として最も適当なものを、次の～のうちから一つ選べ。

[39](2004年センター本試験より)

テオリアとは、主に制作活動に関わる理性の働きである。

テオリアとは、原理を直感的に把握する理性の働きである。

テオリアとは、厳密な論証・推論としての理性の働きである。

テオリアとは、主に行為・実践を導く理性の働きである。

問4 アリストテレス学派の通称として最も適当なものを、次の～のうちから一つ選べ。[40]

キュニク派 マケドニア派 アカデメイア派 ペリパトス派

C 実体には三通りの意味があり，その一つは形相，次は質料，第三はこれら両者からなるものであり，そのうち質料は【あ】であり，形相は【い】である。そこでいま，これら両者からなるものが生き物（魂を持つもの）である場合，このものの物体が靈魂の【う】なのではなくて，その靈魂がそのある物体の【え】なのである。そしてそれゆえに，靈魂は物体なしには存しないが，しかし物体の一種なのではない。（アリストテレス『靈魂論』より）

問5 上のCの文章中の空欄【あ】【い】【う】【え】に入れるのに最も適当な組合せを，次の～のうちから一つ選べ。[41]

【あ】現実態【い】可能態【う】可能態【え】可能態

【あ】可能態【い】現実態【う】可能態【え】可能態

【あ】現実態【い】可能態【う】現実態【え】現実態

【あ】可能態【い】現実態【う】現実態【え】現実態

D あらゆる知識，あらゆる意図がなんらかの善を狙い求めているとすると，国家学が目指していると思われるところの善とは何であろうか。すなわち行為によって達成される諸々の善のうちの最高のものは何であろうか。（『ニコマコス倫理学』より）

問6 上のDの文章に続くその答えとして最も適当なものを，次の～のうちから一つ選べ。[42]

エピステーメー

エウダイモニア

パイディア

グノーシス

問7 アリストテレスが用いている中庸の例の記述として最も適当なものを，次の～のうちから一つ選べ。[43]（2007年センター本試験より）

恐れるべきものとそうでないものを正しく判断できるように知的訓練を積むことで，勇気のある人になる。

金銭や財に関して，必要以上に惜しんだり浪費したりしないよう習慣づけることで，おおらかな人になる。

神の知を持っていないと自覚することで，最大の無知から解放され，人間にふさわしい知恵を得ることができる。

極端な快楽と極端な禁欲を避けながら，静かな修道生活を送ることで，心の平安を得ることができる。

問 8 次の【ア】～【ウ】のうち、習性的徳に該当するものの数として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[44]

【ア】 節 制 【イ】 思 慮 【ウ】 友 愛 【エ】 放 縱

1 つ 2 つ 3 つ 4 つ

問 9 アリストテレスによる「配分的正義」と「調整的正義」の説明として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つずつ選べ。配分的正義については [45] に、調整的正義については [46] に答えよ。(1992 年センター本試験より)

取引や契約その他、人と人との間のあらゆる利害関係において生じた各人の損失と不当な利得を、補償や処罰によって復元すること。

理想的な国家を実現するために、国家を構成する三つの階層がそれぞれ自分に与えられた仕事や本分を果たすこと。

それぞれの国家を支配するものが、自らの利益になることをめざして制定した法律に、人々が従うこと。

一つの共同体を構成する人々の間で、その能力や業績などに応じて、それにふさわしい名誉や財産を振り当てること。

利益のあくなき追究をその本性とする人間が、自分の財産や権利が損なわれるのを恐れて、互いの間で約束を取り結ぶこと。

個人の間様々な差異を一切考慮に入れないで、各人の地位や罪科の均等な状態を実現すること。

問 10 アリストテレスが、貴族政治の道を踏み外した国制として説明しているものとして、最も適当なものを次の ~ のうちから一つ選べ。[47]

寡頭政治 王 制 民主政治 僭主政治

問題は次のページに続きます。

第6問 下の問い(問1～問3)に答えよ。(配点 6)

問1 ストア派の倫理思想の記述として**適当でないもの**を、次の～のうちから一つ選べ。[48]

自然な感情に従う生き方こそが幸福であり、人間らしい生き方である。

宇宙は国家のようなものであり、人間の理性も法も共通のものである。

理性に反する魂の衝動を抑えるアパテイアの境地が最高善である。

自由とはそれが生ずる通りに生ずることを欲することである。

問2 エピクロスの倫理思想の記述として、最も適当なものを、次の～のうちから一つ選べ。[49](2004年センター本試験より)

いかなる快楽をも貪る人は放埒だし、あらゆる快楽を遠ざける人は逆に無感覚な人になる。私たちは、双方の中庸である節制を目指すべきである。

快楽や苦痛は、その強さ、持続性、確実性、遠近性などと、それが及ぶ人々の数を考慮に入れることによって、その総計を計算することができる。

美のほとんどが便宜・効用という観念から生まれるのだから、快楽や苦痛は、美や醜の観念に必然的に伴うだけでなく、美や醜の本質をなす。

私たちが人生の目的とすべき快楽は、放蕩者の快楽でも性的な享楽でもなく、身体に苦痛のないことと、魂に同様のないことに他ならない。

問3 新プラトン主義の思想についての記述として最も適当なものを、次の～のうちから一つ選べ。[50](2003年センター追試改題)

事物は質料に内在する固有の形相が現実化していくことによって生成するが、この世界それ自体は生成も消滅もせず、永遠に存続する。

事物は多様な仕方で生成するが、その根源には「空気」「水」といった構成元素が、本質において変わることはない原理として存在する。

事物は神である「一者」を根源として、そこから流出によって派生的に生成したのであり、人間は実在界と感覚世界との中間に位置する。

事物は普遍的な理(ロゴス)に基づいて生成し、人間はこの理に従うことで情念に支配されない、理想の生き方を実現することができる。

以上で問題は終わりです。